

## ガソリン価格の推移

アメリカが車社会であることは周知のことでしょう。平成 24 年 (2012 年) 末の統計によれば、アメリカの自動車保有台数は約 2 億 5,000 万台で世界第 1 位でした。世界第 2 位は中国で、約 1 億 900 万台。日本は約 7,500 万台で世界第 3 位でした。

さて、その自動車の燃料がガソリンですが、2014 年 (平成 26 年) 11 月 10 日付 USA today 紙に「ガソリン価格の低下が消費を押し上げる」という記事が掲載されていました。 (“Falling Gas Prices Pump Up Consumer Spending” Paul Davidson)

アメリカのガソリン価格 (レギュラー) は以下のように推移しているとのことで、11 月 3 日の価格は 5 月 5 日の価格の 81.25%。この半年で約 2 割下がったことになります。

	単位 (ドル/ガロン)						
基準日	5月5日	6月2日	7月7日	8月4日	9月1日	10月6日	11月3日
アメリカ	3.68	3.69	3.68	3.51	3.46	3.30	2.99

※ エネルギー情報局データから

これらの数字の単位 (ドル/ガロン) を (円/リットル) に補正して、日本の全国平均、滋賀県と比較すると以下ようになります。(為替レートは円安傾向が顕著になってきていますが、便宜上 1 ドル = 115 円、1 ガロン = 3.785 リットルで計算しています。)

	単位 (円/リットル)						
基準日	5月7日	6月2日	7月7日	8月4日	9月1日	10月6日	11月4日
全国	165.1	166.0	169.7	169.4	167.8	166.0	160.1
滋賀県	166.2	163.6	171.0	171.0	170.9	167.3	157.3
アメリカ (補正後)	111.8	112.1	111.8	106.6	105.1	100.3	90.8

※ 全国、滋賀県の価格は経済産業省 資源エネルギー庁データから  
 ※ 祝日の関係で基準日が全く同一ではない。

この比較ですと、11 月当初にはアメリカのガソリン価格は 90.8 円と日本に比較するとかなり安くなっています。

ある経済アナリストは、ドル高によってアメリカの輸出は厳しい局面を迎えているが、それを相殺する経済成長が見込めると予測しています。また、消費者はガソリンの節約による剰余金の 3 分の 2 を使うと考えられる、その金額は 400 億ドル (4 兆 6 千億円) で、2015 年に市場に流れることになるかと予測する経済学者もいます。

ガソリン価格の下落による、アメリカの家計に対する恩恵は非常に大きいと思います。もちろん、我々駐在員にとってもありがたい話ではあるのですが、一方、急激な円安の進行による為替差損打撃には相当厳しいものがあります。

ところで、先日、驚いたことがありました。平日の夕方、17 時 30 分過ぎに近所のスーパーに買い物に行こうとしたところ、最寄りのガソリンスタンドの店先の電光掲示板に 2.979 (ドル/ガロン) という表示が出ていました。「3 ドルを切っている、これはありがたい、帰宅時に給油しよう」と心に誓って買い物に向かい、買い物を終えて帰ってきた 18 時 30 分頃にはその表示が 3.129 (ドル/ガロン) に変わっていたのです。気持ちが萎えました。

現地のアメリカ人に聞くと、こういうことはよくあることだとのこと。日本なら「〇月〇日に値上げします」と事前に予告することもあります。「文化の違い」でしょうか。



最寄りのガソリンスタンド



ガソリン料金の電光掲示盤  
(一番上がレギュラー。11月26日撮影)